

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和5年6月23日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから6月23日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明いたします。

まず、2ページですけれども、6月29日の（5）東海再処理の安全監視チーム。

議題は4つで、1つ目が、5月31日付で変更申請のあった、その概要の説明ということです。

2つ目が、TVF、ガラス固化処理施設の状況の報告で、新しく作る3号熔融炉の製作状況などの説明があります。

3つ目が、LWTFとありますけれども、低放射性廃棄物処理技術の開発施設。ここに新しく設置予定の実証プラントについての報告ということです。

4つ目が、火災防護対策についてのプラントウォークダウンの結果の報告。

それと、議題にはないですが、6月2日の豪雨による再処理施設の地下への浸水について資料が配付されるそうです。

次が、6月30日の（6）ですけれども、第1163回の審査会合です。

議題は2つで、1つ目が、大間の審査会合資料作成における品質保証とありますが、報道もされていましたが、3キロメートルを3メートルと誤ったというその件ですが、2月24日に一回報告されていまして、そのときのコメントへの回答です。

2つ目が、川内1・2号機の標準応答スペクトルの件で、地下構造モデルについてこれまで議論してきまして、設置変更許可のときとは違うモデルを使うという議論が続いていましたけれども、今回、許可時のモデルに戻します、それを使いますという方針変更の説明があるようです。

次が、3ページ目の4のその他のところですが、来週、杉山委員が原子力調和標準化イニシアチブ会合というものに出席するため、IAEA（国際原子力機関）本部に出張します。小型モジュール炉について議論する会議ということです。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。御質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—